

日吉町居場所づくり様へのご提案

【提案者】

近藤 隆文 谷口 香織 奈良場 佑介
平野 景樹 佐藤 知行

【はじめに】

私共は、今年9月より東京ホームタウン大学院というプロジェクトに参加し、地域が抱える課題について向き合い始めました。地域活動に関わられている皆様にお話をうかがったところ、「活動拠点が無い」「活動を支える人が不足している」「コロナでリアルに会えない」といった共通の課題が聞かれました。

本日は、課題解決につながるアイデアの種をお持ちしましたのでお聞きいただき、ご忌憚のない意見をいただけたらと考えております。微力ながら、少しでも皆様のお力になればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 東京ホームタウン大学院とは？

東京都とサービスグラントという企業が共同主催するプロジェクトです。少子高齢化が進む東京都における課題を知り、自分自身が未来の地域づくりのために取り組んでみたい活動や未来の構想を描くことを目的とした研究活動です。

■ 研究チームについて

チームメンバーは、グロービス経営大学院というビジネススクールで共に学んだ5名で構成されています。学びを社会課題の貢献に生かしたいと思い、プロジェクトに参加させていただきました。

【本日の流れ】

20：00～20：20 概要説明・自己紹介

20：20～21：00 地域課題の整理と解決に向けたご提案

21：00～21：30 質疑応答

これまでの聞き取りからうかがえた課題

活動拠点 がない

- 公共のスペースを間借りしているが、利用できる日が限られる。
- スペースが狭いため、受け入れる人数が限定される。
- 新府中街道新設により、地域が分断されてしまった。
- 近くに空きアパートがあるが、大家さんは「老朽化しているので貸す当てはない」との返答。

人材不足

- 活動を支える人員が限定的。
- 主要メンバーが突発的な事情で活動に関われなくなると活動が継続できない。

リアルに 会えない

- コロナ以降、リアルな集まりを中止している。
- 今年はイベントの開催を見合わせている。
- コロナのリスクは理解しながらも活動は継続せざるを得ない。

解決の方向性 ①活動拠点に関する問題

- 最近では、駅の構内や夜間営業の飲食店の昼の間貸しなど、従来は見過ごされていたスペースの活用が注目されています。
- 空き家増加は社会問題となっており、空き家の活用は居場所づくりのスペース確保に有用と考えます。
- 近年、クラウドファンディングのしくみで空き家の改修費用を集める団体も出てきています。

活動拠点
がない

解決の方向性	具体的な活動や事例
既存施設の 空きスペース活用	神奈川県社会福祉法人がコミュニティスペース開放 https://www.keieikyo.com/data/tiki8_17.pdf
	北区なでしこ小学校の地域開放 https://bit.ly/2UyFFo6
	飲食店のアイドルタイム（営業時間外）を有効利用 https://media.instabase.jp/columns/timelending/
空き家の活用	空き家をコミュニティスペースとして活用 https://bit.ly/35xLFDU
	クルミドコーヒー影山さんのぶんじ寮（クラウドファンディング*1で改修費用を公募） https://motion-gallery.net/projects/bunji_ryo/collectors?page=4

解決の方向性 ②活動を支える人材不足の問題

【地域住民への意識調査】

回答数：23

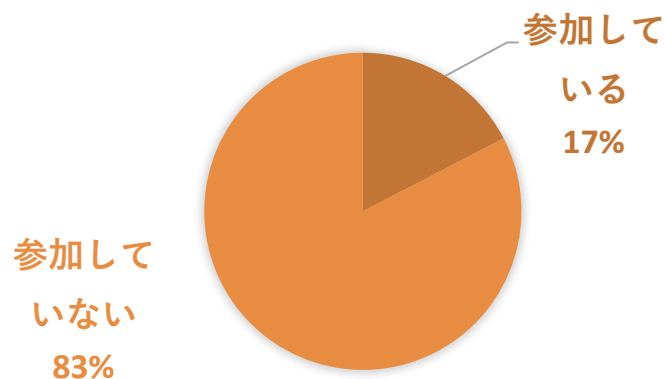
年齢層：30代～40代

調査方法：国分寺市某イベントにて

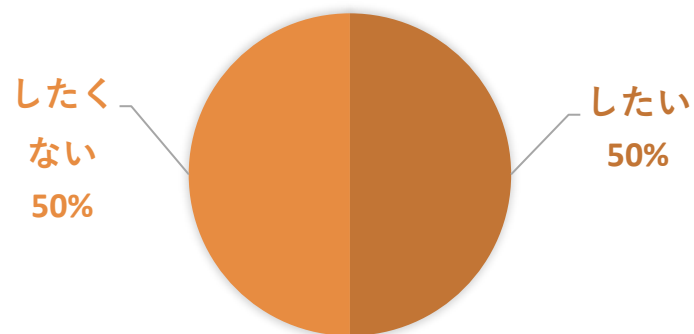
結果：



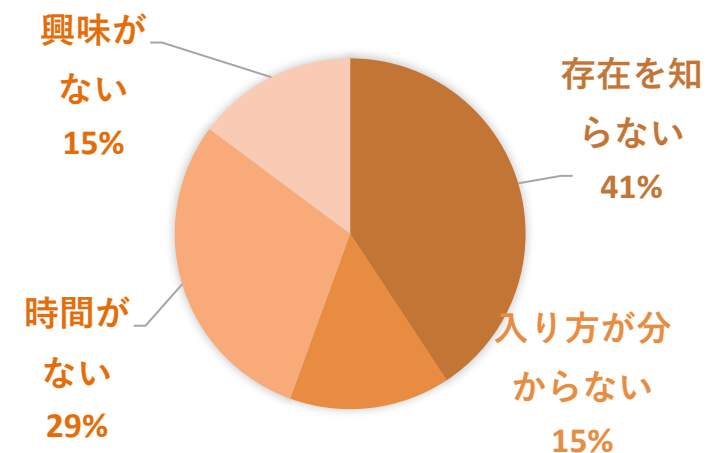
コミュニティの参加状況



今後コミュニティに参加したいか



参加していない理由



【考察】

- 現在は、地域コミュニティに参加していないが、今後したいという人は一定数潜在している。
- 参加していない主な理由は「存在を知らない」「入り方が分からない」「時間がない」というもの。これらの課題をクリアにすることが人材確保につながりそう。

解決の方向性 ②活動を支える人材不足の問題

- 日吉町地域住民の意識調査を行い、潜在人材の掘り起こしをはいかがでしょうか？
- オンラインの活用やタスクの分散化により、地域活動参加の障壁を下げるのが有効と考えます。
- 地域活動に参加すると、うれしくなる仕掛けがあると人が集まるのでは？

人材
不足

解決の方向性	具体的な活動や事例
地域住民への 情報発信	日吉地区住民への意識調査 自治会、PTAなど地域団体専用のSNSツール「マチマチ」 今、自治会・町内会がご近所SNSを活用すべき理由 マチマチ note
地域活動への 参加障壁を下げる	単発、短時間で参加できる活動 (例：イベントポスター作り、配食サービスのサポート、登下校の見守り) SNSなどのオンライン上でつながる（マチマチ、Facebookなど） 以下URLは、Facebookグループ「国分寺市よりみちネットワーク」参加者が国分寺の魅力、飲食店を紹介 https://www.facebook.com/groups/2038856273062823/members
地域活動の魅力向上	自分の強みを生かせる活動×使いたくなるサービス×何かしらの対価 (例：シニア層による給食サービス×共働き世帯の食のサポート×月額定額)

解決の方向性 ③リアルに集まらない問題

- コロナを機にデジタル化の流れが加速しており、シニア向けのスマホ教室のニーズが高まっている。
- デジタルツールは、コロナ禍に限らず災害時に有効なコミュニケーションツールとなる。「いざ！」という時のために、デジタル化に取り組む地域も増えている。
- デジタルツールは、若い世代の巻き込みや、高齢者の安否確認など、地域のリソースや情報をつなぐ有効なツールになり得ると考えます。

リアルに
会えない

解決の方向性	具体的な活動や事例
デジタルツールに慣れる	企業（KDDI）主催の高齢者向けスマホ教室 https://www.kddi.com/corporate/csr/lesson/senior/brief-summary/ 地域人材によるスマホ教室、オンライン体験会
オンラインサロン開催	つくば市UDワークによる高齢者向けオンラインサロンの取組み https://readyfor.jp/projects/udwork2020
SNS活用	<ul style="list-style-type: none">• LINEグループ、messengerグループなどのコミュニケーションツール活用（情報発信、コミュニケーション、安否確認）• OOPAY

今後の展開について

- 本日までのご提案の中で「実際に取り組んでみたい」「もう少し詳しく話を聞きたい」というものがありましたらご相談ください。
- 私共は期限付きのプロジェクトではありますが、導入時のサポート等は積極的に関わらせていただきます。

【導入の一例】

